

**製品名: ATP5L2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07339**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	20kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ATP5L2
別名	ATP5L2; ATP5K2; ATP synthase subunit g 2; mitochondrial; ATPase subunit g 2
遺伝子 ID	267020.0
SwissProt ID	Q7Z4Y8
免疫原	抗血清はヒト ATP5L2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100

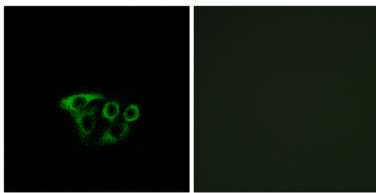
**背景**

機能: ミトコンドリア膜 ATP 合成酵素 (F(1)F(0)ATP 合成酵素または複合体 V) は、呼吸鎖の電子伝達複合体によって生成される膜を横切るプロトン勾配の存在下で、ADP から ATP を生成します。F 型 ATPase は、膜外触媒コアを含む F(1)と、膜プロトンチャンネルを

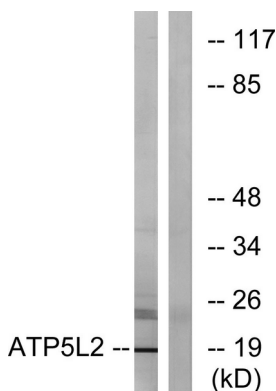
含む F(0) の 2 つの構造ドメインで構成され、これらは中央茎と周辺茎によって連結されています。触媒反応中、F(1) の触媒ドメインにおける ATP 合成は、中央茎サブユニットの回転機構を介してプロトン輸送と結合します。複合体 F(0) ドメインの一部です。膜内でサブユニット a と共に位置するマイナーサブユニット。類似性: ATPase g サブユニットファミリーに属します。サブユニット: F 型 ATPase には、CF(1) (触媒コア) と CF(0) (膜プロトンチャンネル) の 2 つのコンポーネントがあります。CF(0) には、9 つのサブユニット (a、b、c、d、e、f、g、F6、8 (または A6L)) があるようです。機能: ミトコンドリア膜 ATP 合成酵素 (F(1)F(0) ATP 合成酵素または複合体 V) は、呼吸鎖の電子伝達複合体によって生成される膜を横切るプロトン勾配の存在下で、ADP から ATP を生成します。F 型 ATPase は、膜外触媒コアを含む F(1) と、膜プロトンチャンネルを含む F(0) の 2 つの構造ドメインで構成され、中心茎と周辺茎で連結されています。触媒反応中、F(1) の触媒ドメインにおける ATP 合成は、中央の茎状サブユニットの回転機構を介してプロトン輸送と結合する。複合 F(0) ドメインの一部。膜内でサブユニット a と共に位置するマイナーサブユニット。類似性: ATPase g サブユニットファミリーに属する。サブユニット: F 型 ATPase は、触媒コアである CF(1) と膜プロトンチャンネルである CF(0) の 2 つの構成要素から構成される。CF(0) は、a、b、c、d、e、f、g、F6、8 (または A6L) の 9 つのサブユニットから構成されると考えられる。

## 研究分野

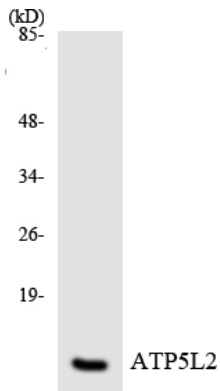
## 画像データ



ATP5L2 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



A549 細胞ライセートの ATP5L2 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



ATP5L2 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。